



オスプレイの クラッチ不具合問題を問う

守谷 浩一 議員 《日本共産党》

2022年6月8日のカリフォルニア州南部で発生したオスプレイの墜落事故の報告書が2023年7月21日に公表されました。事故報告書では、クラッチの不具合が強調されています。エンジンの動力を回転力としてプロペラに伝えるクラッチが不連続になり、それが再接続される時に瞬時に過大な回転力が接続部品や周辺機器に限界を超えてかかり、飛行の安定を失います。今回はエンジンそのものと緊急時に作動すべきシステムが同時に故障した二重事故ということでした。この点については、防衛省が、部品交換で安全になると説明して

いますが、アメリカ側がそのように主張しているだけで、データを日本政府は見えていません。事故報告書では、動力システム全体の見直し、再設計、再開発が必要と警告しています。これらのことについて、どのように受け止めているのか、見解を伺います。

総合政策部長 オスプレイに限らず航空機の運用に当たっては、国の責任において安全面に留意してもらいたいと考えます。オスプレイ自体の安全性や飛行技術などについては、大変専門性の高い航空機であり、本市では専門的な見地を持ち合わせていないので、答えられません。



保育園に預けない家庭に 月10万円支給を提案

竹田 陽介 議員 《自民党・いさま》

全国の市町村が支出した児童福祉費は、令和3年度が10・7兆円で20年前との比較では全体で3・2倍に増えています。そこで、本市の児童福祉費の推移とその増加要因について伺います。

子ども未来部長 平成14年度が26億8198万円余、令和4年度が82億9743万円余で56億1544万円余増えています。増加の要因は保育所運営費負担事業費、保育所施設整備事業費、保育所管理運営事業費の増です。

【再質問】 保育所運営費負担事業費の増は、保育園の運営に当たり国が定めた費用が増えているということですか。

その費用を本市の児童一人当たりで計算すると平均で月額10万1425円です。それならば例えば、保育園に預けない選択をした家庭に対して月10万円を一定年齢まで支給するというのは面白い発想だと思えますが、本市の見解を伺います。

子ども未来部長 一つの保育園を建てるとランニングコストも含めて初年度は4・5億円かかります。それを踏まえての発想だと思えますが、今すぐには難しい部分があります。まずは待機児童の解消という当面の目標達成後にそのような政策ができるのか、改めて検討をしていきます。



障がい者の選挙権行使に関する 配慮について

清水 剛 議員 《自民党・いさま》

本市在住の選挙権がある障がい者で、就労継続支援B型事業所等を利用している方も多いいと思います。共生社会の観点も含め、選挙への参加促進や投票率の向上を目的に、当該事業所等に対して、期日前投票のPRなどを行って

いる障がいがある方や、当該事業所等への期日前投票のPRなどについては、選挙権行使に係る公平性の観点から、取組は行っていません。

福祉部長 選挙権の行使に係る公平性の観点から、福祉部としても特定の事業所等へのPRの予定はありません。また、投票所へ行くことができない障がい者に特化した支援は難しいと感じていますが、投票に係る様々な相談があった場合には、選挙管理委員事務局とも情報を共有し、課題について対応できる部分はしていきたいと思えます。



ボランティア保険(座間市ボランティア活動補償制度)について

京免 康彦 議員 《自民党・いさま》

本市のボランティア活動補償制度において、熱中症などの内因性による事故は補償の対象外となっています。近隣他市の状況を調べたところ、対象となる活動と補償内容はほぼ同等ですが、熱中症などの補償の範囲について他市との比較をお示しください。

地域づくり部長 近隣市の状況について、各市のホームページで確認したところ、要件に細かい違いはありますが、基本的な部分は同じでした。一方、熱中症や細菌性、ウイルス性の食中毒、急性心疾患等への補償については、各市対象の範囲や額には差はあるものの、全てを対象外として

るのは本市だけでした。**【再質問】** 市民が少しでも安心してボランティア活動ができる環境を整える必要があると考えますが、この件について市長の見解を伺います。

市長 近年、大変温暖化が進み、高温になる日も続いています。また、現状ではコロナ禍も落ち着き、以前のイベントなども復活している状況です。こういった昨今の気象状況や高齢化の進行もあり、各種イベントが復活しつつある現状も踏まえて、本市においてもボランティア保険の補償内容等について見直しを進める必要があると考えています。



带状疱疹ワクチン接種に対する 費用助成について伺う

伊藤 多華 議員 《座間市公明党》

带状疱疹は、80歳までに約3人に1人がかかり、発症した50歳以上の約2割の方に長期間にわたる痛みが残る可能性があります。基礎疾患との関連性も示されていて、日本では、毎年60万人がかかる決して珍しい疾患ではありません。そこで、発症や重症化を予防するために開発されたのが带状疱疹ワクチンです。

民が6万人余と伺っています。ワクチン接種費用助成を開始している近隣市と同程度と考えますが、带状疱疹ワクチン接種に対する費用助成について見解を伺います。

健康部長 予防接種費用の助成については、国が定期接種ワクチンとして指定をし、統一した接種体制を整備することが望ましいと考えています。よって、現在、任意接種である带状疱疹ワクチンの費用助成については、近隣市町村において格差が生じる可能性がありますことから慎重に検討しなければならぬと考えますので、引き続き国や県の動向を注視していきます。



地域集会所修繕事業の補助金交付 について、柔軟な対応を求める

上沢 本尚 議員 《座間市公明党》

地域集会所修繕事業について、補助金の交付要綱によると、緊急修繕は「風水害等の天災による損壊が起きたこと」に起因して、使用不能となつた地域集会所に対して行われる緊急的な修繕で市長が認められたものとあります。しかし、「風水害等の天災による損壊が起きたこと」と極めて限定的になっているので、急に床の一部が抜けてしまった等の突発的に修繕が必要となった場合には、対応できません。

見解を伺います。**市長** 地域集会所が突発的な理由で使用できなくなることは、地域活動に支障が出てしまうということなので、大変まじくはないと思えます。そのような場合は、できる限り迅速な対応を整えていくことが重要だと考えています。

地域づくり部長 不測の事態による必要不可欠な緊急修繕であれば、状況によっては補正予算による対応も考えられます。地域コミュニティの維持に地域集会所が役立つことは認識していますので、適切な補助金交付の仕組みと方法について検討していきます。

次の陳情は、9月定例会の企画総務常任委員会及び都市環境常任委員会で審査が行われましたが、閉会中の継続審査に決まりました。

陳情第52号 学校施設整備促進及び小田急相模原駅前歩行者用デッキ(ペDESTリアンデッキ)建設中止を求めるとの陳情

陳情第55号 国に対し、資格請求書等保存方式(インボイス制度)の延期、見直しを求める意見書を提出することを求める陳情

陳情第56号 公園のトイレ照明について改善を求める陳情

陳情第67号 国に対し、インボイス制度の実施延期を求める意見書の提出を求める陳情

請願・陳情の 提出について

請願陳情はいつでも受け付けています。提出された請願陳情は3月、6月、9月、12月の年4回開催される定例会において審査されます。請願陳情の記入例は市議会のホームページをご覧ください。

なお、提出の際にご不明な点や定例会ごとの締切日は、議会事務局にお問い合わせください。
☎046(6552)8872